

I 第36週の発生動向 (2016/9/5~2016/9/11)

1. 警報・注意報は、発令されていません。
2. ヘルパンギーナは、夏期に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる「夏かぜ」の代表的疾患ですが、県内では第27週(7/4~7/10)から増加傾向が続いています。

II 第36週五類感染症定点把握

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

		東青 (東地方保健所・青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (八戸保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの増減	
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
小児科	インフルエンザ																0
小児科	RSウイルス感染症	1	0.13	18	2.00	30	3.00	4	0.80	2	0.33	1	0.25	56	1.33	-13	
	咽頭結膜熱					1	0.10							1	0.02	-3	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.25	5	0.56	36	3.60					5	1.25	48	1.14	-1	
	感染性胃腸炎	43	5.38	13	1.44	41	4.10	16	3.20			7	1.75	120	2.86	12	
	水痘	1	0.13									8	2.00	9	0.21	4	
	手足口病	7	0.88	15	1.67	8	0.80			2	0.33	3	0.75	35	0.83	4	
	伝染性紅斑	5	0.63							1	0.17			6	0.14	-7	
	突発性発しん	5	0.63	5	0.56	5	0.50	1	0.20	2	0.33	3	0.75	21	0.50	6	
	百日咳																-4
	ヘルパンギーナ	37	4.63	27	3.00	22	2.20	16	3.20	16	2.67	14	3.50	132	3.14	25	
流行性耳下腺炎	3	0.38	2	0.22			2	0.40	4	0.67	2	0.50	13	0.31	-2		
眼科	急性出血性結膜炎															0	
	流行性角結膜炎	1	0.50	1	0.33	2	1.00	1	1.00					5	0.45	0	
基幹	クラミジア肺炎															0	
	細菌性髄膜炎	1	1.00			1	1.00							2	0.33	1	
	マイコプラズマ肺炎					2	2.00					2	2.00	4	0.67	0	
	無菌性髄膜炎	2	2.00											2	0.33	2	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)							1	1.00					1	0.17	1	

III 全数把握疾患

は警報、は注意報。「空欄」: 患者報告無し。

- 結核(二類全数把握疾患): 青森市+東地方1人、弘前2人、八戸2人 (2016年計:201人)
- 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 八戸3人 (2016年計: 89人)
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(五類全数把握疾患): むつ1人 (2016年計: 10人)
- 梅毒(五類全数把握疾患): 弘前1人 (2016年計: 11人)

IV 病原体検出情報

※()内は、検査材料及び検体採取日です。 数値は人数です。

- 風しん疑い患者(咽頭ぬぐい液8/30): エコーウイルス9型及びヒトライノウイルスA: 弘前1
- 無菌性髄膜炎患者(咽頭ぬぐい液、ふん便、髄液8/18): エコーウイルス6型: 八戸3、エコーウイルス9型: 八戸1
- 突発性発疹患者(咽頭ぬぐい液、直腸ぬぐい液8/24): エコーウイルス9型: 八戸1、HHV6B: 八戸1
- 不明(咽頭ぬぐい液8/19): ヒトライノウイルスA及びHHV6B: 八戸1
- 上気道炎患者(咽頭ぬぐい液、ふん便8/24): ヒトライノウイルスC及びヒトパラインフルエンザウイルス3型: 青森市1、ヒトパレコウイルス: 青森市1
- 下気道炎患者(咽頭ぬぐい液、鼻汁8/24): ヒトパラインフルエンザウイルス3型: 青森市1、エコーウイルス6型: 八戸1
- 手足口病患者(ふん便、咽頭ぬぐい液8/10): コクサッキーウイルスA16型: 八戸1

感染症の窓

麻しん(五類全数把握疾患) 第2回

麻しんは、「はしか」とも呼ばれ、麻しんウイルスによって引き起される急性の感染症です。麻しんウイルスの感染経路は、**空気感染、飛沫感染、接触感染**で、その感染力は非常に強いと言われています。

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2~3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。

全国では2016年第35週現在で82人の患者報告があり、2015年の1年間の患者報告数35人の2倍を超えています。青森県では2011年以降、麻しんの患者報告はありません(表)。**有効な予防法は麻しんワクチンの接種**です。予防効果を確実にするためには、2回の接種が必要です。麻しんにかかったことがなく、ワクチン接種も受けたことがない場合は、ワクチン接種を受けることをお勧めします。なお、麻しんにかかったことがあるかどうか不明な場合は、かかりつけの医師にご相談ください。

【参考】予防接種等詳しくはこちらをご覧ください→ [厚生労働省 HP](#) [厚生労働省検疫所](#)

表 全国及び青森県における麻しん患者報告数

年	全国(人)	青森県(人)
2010年	447	7
2011年	439	0
2012年	283	0
2013年	229	0
2014年	462	0
2015年	35	0
2016年	82	0

※2016年は第35週までです。

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2016年第30週～2016年第36週）

(人)

週	期間	東青 (東地方保健所・ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (八戸保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
30	H28.7.25 ~ H28.7.31		つつが虫病1人				水痘(入院例)1人
31	H28.8.1 ~ H28.8.7	侵襲性肺炎球菌感染症2人	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人 梅毒1人			
32	H28.8.8 ~ H28.8.14			腸管出血性大腸菌感染症3人	クロイツフェルト・ヤコブ病1人		
33	H28.8.15 ~ H28.8.21	後天性免疫不全症候群1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症65人 侵襲性肺炎球菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症2人	
34	H28.8.22 ~ H28.8.28	腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症10人			
35	H28.8.29 ~ H28.9.4				腸管出血性大腸菌感染症1人		
36	H28.9.5 ~ H28.9.11		梅毒1人	腸管出血性大腸菌感染症3人			カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1人

VI 結核(二類全数把握疾患) (2016年第30週～2016年第36週)

(人)

週	期間	東青 (東地方保健所・ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (八戸保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
30	H28.7.25 ~ H28.7.31	1	1	1	2	1	
31	H28.8.1 ~ H28.8.7	2	1				
32	H28.8.8 ~ H28.8.14	2					
33	H28.8.15 ~ H28.8.21		3	1	1		
34	H28.8.22 ~ H28.8.28		1		1	1	3
35	H28.8.29 ~ H28.9.4		2	2	1		
36	H28.9.5 ~ H28.9.11	1	2	2			

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注:発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国 (2016年第1週～第35週累計)

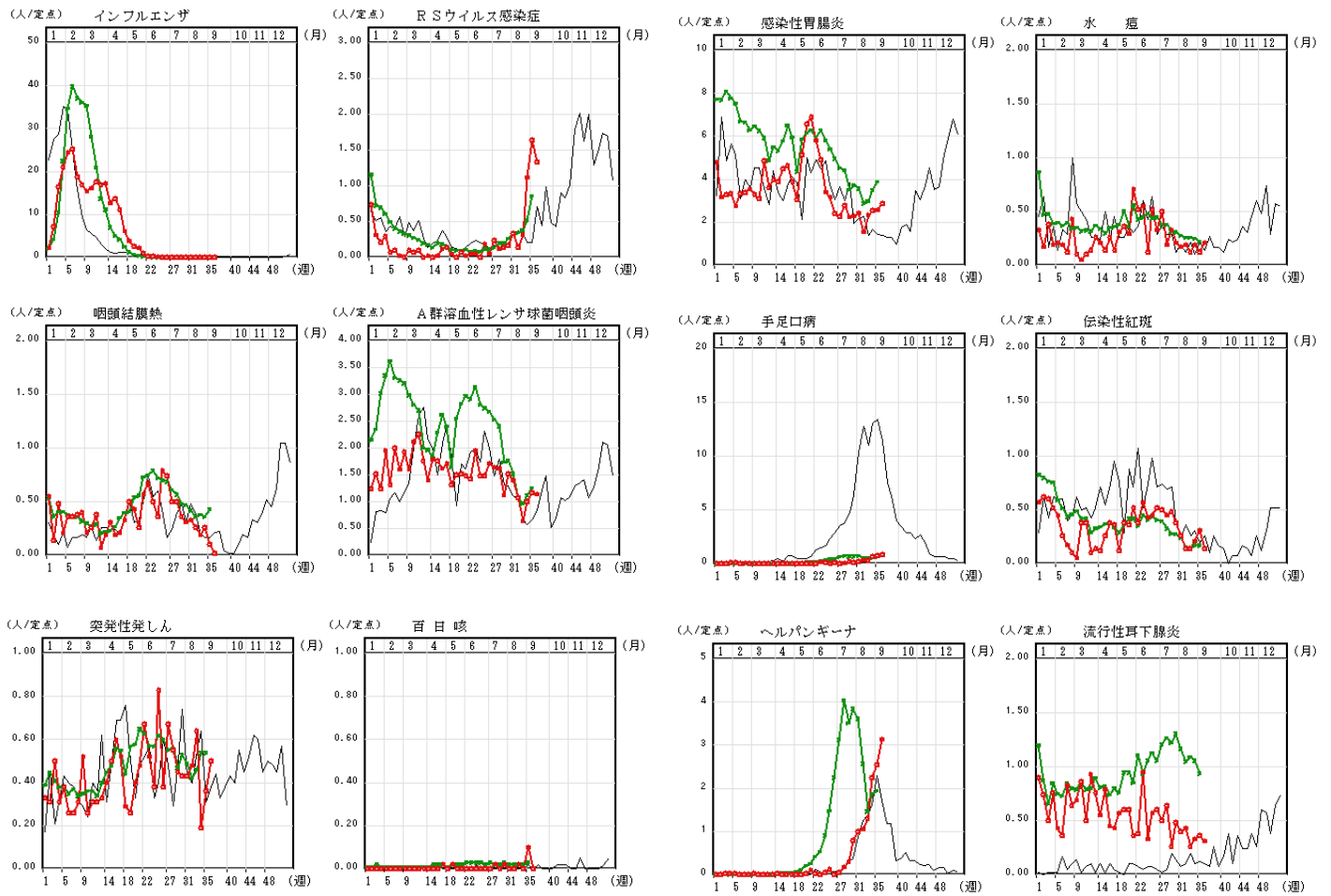
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	回歸熱	コクシジオイド症	ジカウイルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介感染症		
累積報告数	16093	5	89	2358	31	12	280	211	14	4	6	3	7	39	1		
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	ポツリヌス症	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症		
累積報告数	6	91	237	136	1	3	33	5	936	24	774	185	964	571	8		
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
累積報告数	123	350	954	44	219	31	1841	206	2876	84	83	37	96	82	25		

青森県 (2016年第1週～第36週累計)

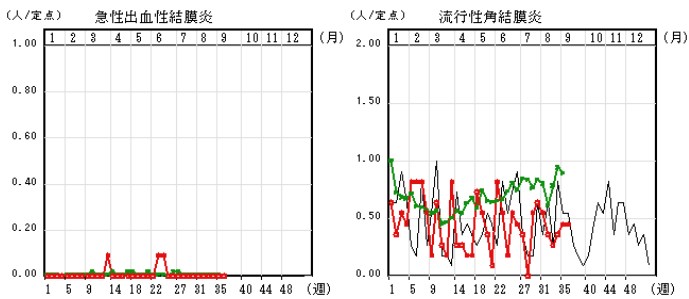
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	デング熱	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒
累積報告数	201	89	5	3	1	5	3	2	10	1	3	3	2	7	3	11

VIII インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2016年第36週、ただし全国は前週)

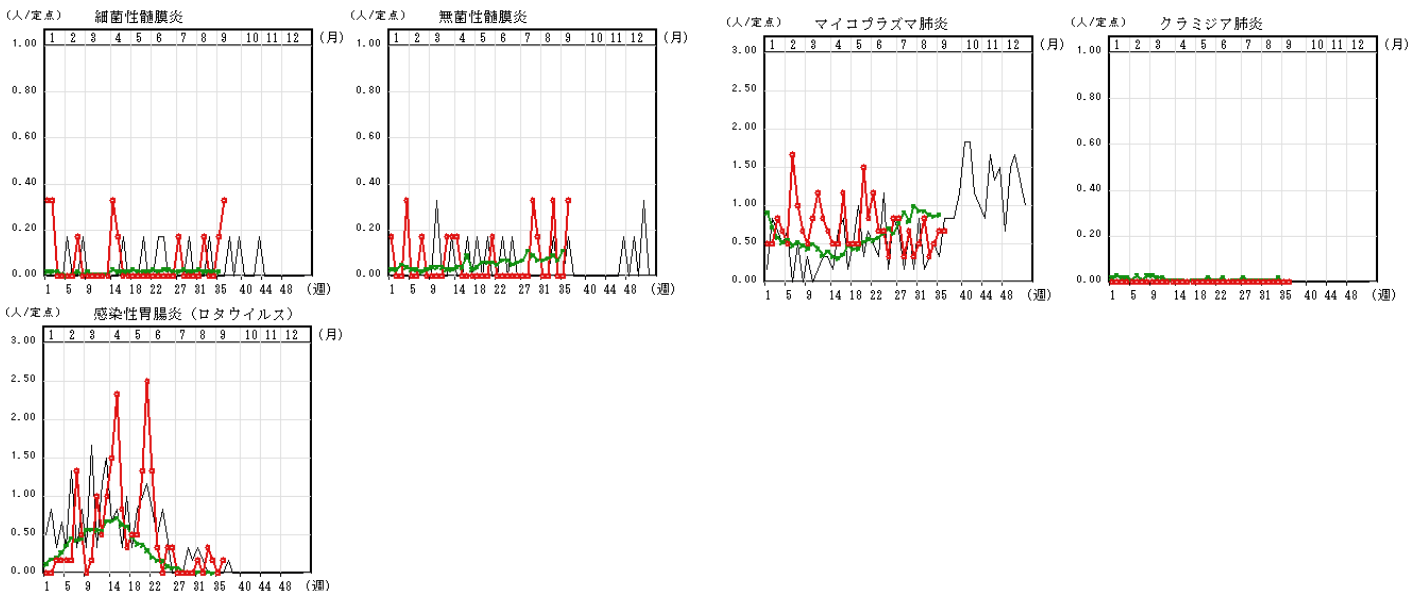
グラフの説明 ○—○は2016年青森県、——は2015年青森県、 ×—×は2016年全国



IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2016年第36週、ただし全国は前週)



X 基幹定点把握疾患週別推移 (2016年第36週、ただし全国は前週)



XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

平成28年第36週

報告はありませんでした。

平成28年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計 (施設別)
		1-4週	5-8週	9-12週	13-16週	17-21週	22-25週	26-30週	31-34週	35週 36週	
介護・老人福祉関係施設	件数	0	3	1	2	2	0	0	0	0	8
	発症者数	0	84	13	45	30	0	0	0	0	172
児童・婦人関係施設等	件数	0	2	0	0	2	1	0	0	0	5
	発症者数	0	26	0	0	39	26	0	0	0	91
障害関係施設	件数	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
	発症者数	0	0	11	34	0	0	0	0	0	45
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(月別)	件数	0	5	2	4	4	1	0	0	0	16
	発症者数	0	110	24	79	69	26	0	0	0	308